

## 背景

- 複数患者を受け持ち、多重課題を抱えながら看護を行うための看護実践能力を強化することは重要な課題である。
- 看護基礎教育と看護実践とのギャップを縮めるための教育方法は模索段階である。
- 多重課題の状況下でも知識と技術を統合し安全に看護実践でき、新人看護師が臨床現場にスムーズに適應できるような教育プログラムの開発が求められている。
- ユニフィケーションにより看護基礎教育と継続教育が協働して取り組むことが多重課題の看護実践能力向上に繋がると考えた。

## 目的

多重課題の教材に含まれているとよい設定は「緊急コール、血糖測定、食事介助」であることを明らかにした。

今回はこれらの設定を含んだ多重課題のシナリオと視聴覚教材を作成し教育実践を行い、学生の学びから、教育プログラムを作成する基礎資料を得ることを目的とした。

## 研究方法

1. 多重課題のシナリオと視聴覚教材の作成（2013年4月～2014年9月）
  - 3事例の設定
    - ・肺炎患者の看護（吸入療法、口腔内吸引、アラーム対応）
    - ・脳梗塞患者の看護（移乗介助、嚥下障害、食事介助）
    - ・糖尿病患者の看護（低血糖症状への対応）
  - 視聴覚教材の構成  
学習目的、学習目標、多重課題の設定、患者紹介、看護師役（看護学生）、看護師役（新卒新人看護師）、看護師役（ベテラン看護師）の対応場面、看護技術の手順と留意点（吸入療法、口腔内吸引、簡易血糖測定）、看護学部と看護部で検討を重ね教材を作成した。
2. 教育実践（2014年4月～2014年9月）
  - 看護学部4年生（2014年度 80人）への教育実践
  - 教育実践の評価は授業評価等に記載された内容とした。

表1 教育実践の内容

科目	時間	内容
看護提供	講義1コマ	● 複数患者に対する看護ケアマネジメント
システム論 (1単位)	演習2コマ	● 3事例の看護過程の展開 ● 3事例を受け持つ場合の1日の看護援助計画の立案
看護管理実習 (2単位)	1日	● 多重課題の設定で、看護学生が看護師役となり患者に対応するシミュレーション教育を実施 ● 看護学生が対応した場面を視聴し振り返り ● ベテラン看護師が対応する場面を視聴し振り返り

## 多重課題の設定

表2 多重課題の設定

時間	肺炎患者 患者A	脳梗塞患者 患者B	糖尿病患者 患者C
11時30分	吸入が終了し、体位を整えたところ	リハビリから帰宅し、昼食が近いため車いすで座位をとっているところ	昼食前の血糖測定を行う直前のところ

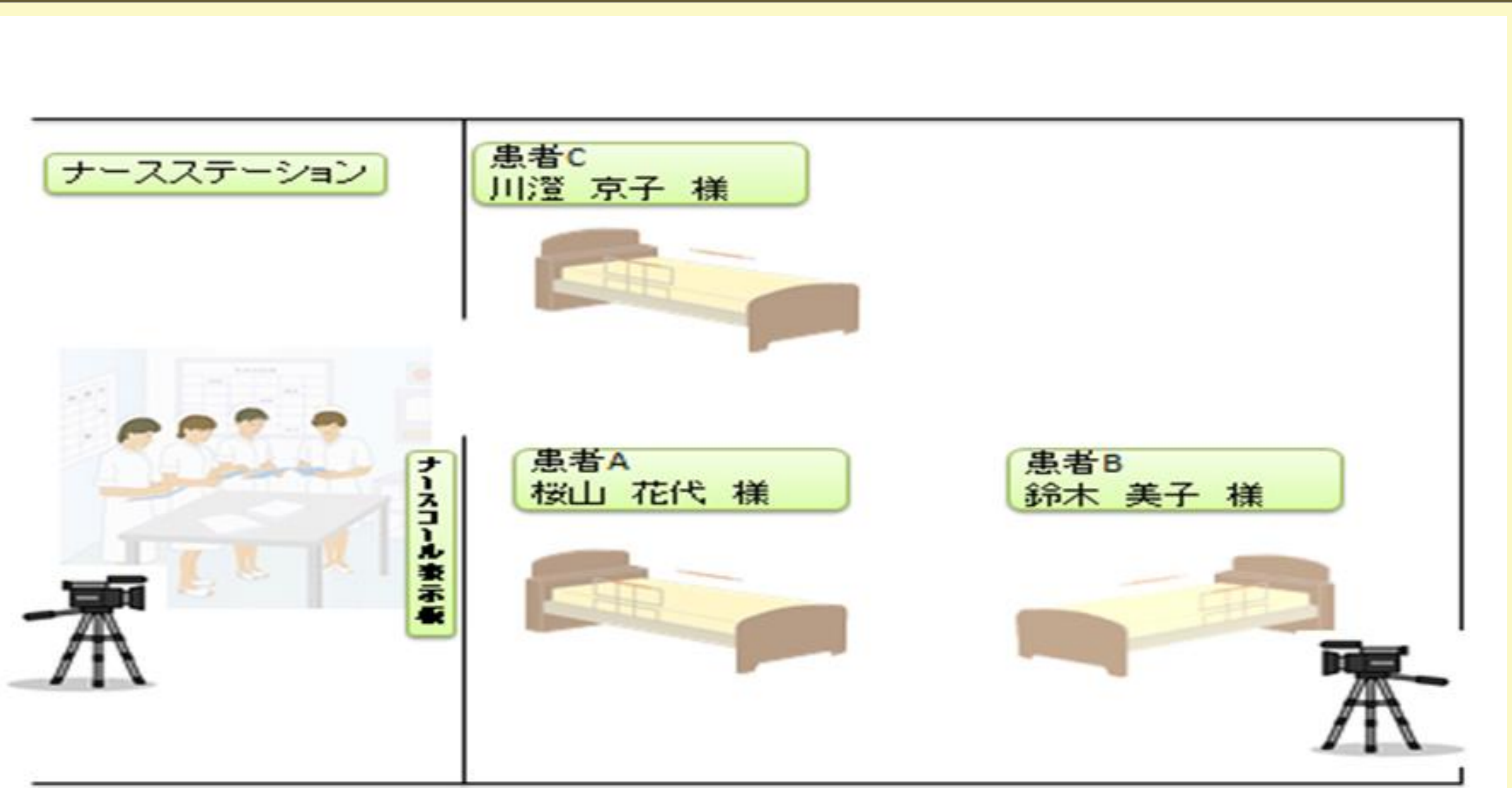


図 病室、ナースステーションの配置

## 結果・考察

表3 看護提供システム論Ⅰの学び

- 援助計画の優先順位を考えることができた。
- 優先順位を決定するには、患者の疾患、症状、可能なセルフケアなど基本的な情報収集を行うことが重要である。
- 情報をもとに、重症度の高い患者やリスクの高い患者から順に優先して看護援助を行う必要がある。

表4 看護管理実習での学び

- 複数患者の看護ケアマネジメントの基礎的な力が身についた。
- 情報をアセスメントし、どのような観察がさらに必要か考える力がついた。
- 臨地実習で学んだことを振り返る時間があった。

表5 情報収集に関すること

- 情報収集方法（カルテ、申し送り、患者）や収集するタイミングを確認する必要がある。
- 申し送りの前にカルテから情報収集し、申し送りで確認する、援助を他の看護師に依頼した後は確認する、午後カルテの指示を確認し、休憩前と申し送り前に記録を行う、という情報共有の工夫が必要である。
- 患者ケアに必要な情報収集を行い、看護援助計画に繋げることが課題である。

表6 優先順位に関すること

- 優先順位を決定するには、まず、一人一人の患者がどのような疾患を持っているのか、どのような症状なのか、当日の医療指示、現在の全身状態、可能なセルフケアなど基本的な情報収集を行うことが重要である。
- 情報をもとに、状態が変化しやすく、重症度の高い患者や、リスクの高い物から順に優先して援助を行っていく必要がある。
- 排泄や食事、清潔といったニードを満たす援助も優先順位が高いため、それぞれの患者の状態を見極めて優先順位を決定する。
- リハビリやX線撮影などは看護師だけでなく、医師や理学療法士、作業療法士など様々な職種の連携により時間の調整を行われており、時間が決められているため、優先度は高くなる。

【表3】

- 「援助計画の優先順位を考えることができた」、「優先順位を決定するためには、（中略）情報収集を行うことが重要である」との記載があり、情報収集や優先順位に関する学びが多かった。

【表4】

- 臨地実習の中で、看護学生が看護師役となり患者に対応するシミュレーション教育を実践した。「複数患者の看護ケアマネジメントの基礎的な力が身についた」、「情報をアセスメントし、どのような観察がさらに必要か考える力がついた」などの学びを得ることができていた。

【表5】

- 情報収集に関する内容は、「収集方法や収集するタイミングがある」、「情報共有の工夫が必要である」、「看護援助計画に繋げることが課題である」など、学生は多くの学びを得ることができていた。

【表6】

- 優先順位に関する内容は、情報をもとに優先順位を決定することの重要性や、排泄や食事、清潔などをニードを満たす援助の優先度が高いことなどであった。

【考察】

学習目標とした「多重課題の状況下で看護援助の優先順位の決定ができる」については、多くの学生が到達しており、看護基礎教育の充実に寄与することが出来たと考える。今後も継続して視聴覚教材を用いて、看護実践能力向上のために多重課題の状況下における教育内容について検討を重ねたい。

## 倫理的配慮・会員外共同研究者・研究費・COI

- 当該大学研究倫理委員会の承認を得た。
- 会員外共同研究者：名古屋市立大学病院看護部 渡辺美奈、水野千枝子、平岡翠
- 平成24～26年度名古屋市立大学特別研究奨励費の助成を受けた。
- 演題発表に関連し、開示すべきCOIはありません。

- 文献 1) 佐居由美他:看護基礎教育と看護実践とのギャップを縮める総合実習の効果, 聖路加看護学会誌, 13, 2009.  
2) 小林紀明:複数受け持ち実習の現状と有効性に関する一考察, 目白大学健康科学研究, 1, 2008.  
3) 渡辺美奈, 山本洋行, 脇本寛子, 井出由美, 岩田広子, 矢野久子:ユニフィケーションによる看護実践能力向上に有用な視聴覚教材に関する文献的考察, 名古屋市立大学看護学部紀要, 11, 2012.  
4) 脇本寛子他:ユニフィケーションによる看護実践能力向上に向けた多重課題に関する視聴覚教材の作成とその評価, 第23回日本看護学教育学会, 仙台, 2013.